

## 何でも読もう会

書物名	『猿蟹合戦』 芥川龍之介	開催 日時	2023.11.6	出席者	8名
<p>芥川の短編（掌編）小説を再開。</p> <p>民話の「猿蟹合戦」を基に、彼らしい今日的な意味合いに味つけがされている。</p> <p>先ず、この民話に出てくる猿、蟹、白など登場人物と敵討ちの仕方が本によって少しずつ異なる。</p> <p>作者も承知していて、それは適当に切り上げ、敵討ちに関係した連中がその後どうなったかに話を敷衍。それこそが彼がここで書きたかったこと。</p> <p>敵討ちの首謀者の蟹は死刑、他の連中も重罪となり、しかも世論は誰も同情してくれない、むしろ批判的だと彼は創作した。</p> <p>発表は大正12年。大正ロマンといわれ、文芸上も白樺派など理想主義的な雰囲気漂うが現実はずいぶん違う。第一次大戦後の復興特需から大正バブルが発生、小金などドブに捨てる成金が誕生する一方、富山の米騒動など、底辺では生活に呻吟。</p> <p>この両極端な社会情勢と貧者に目を向けない当時の支配体制を痛罵しているという理解が多かった。『或る阿呆の一生』によると、彼自身も経済的にも生活面でも追い込まれていたが、それはおくびにも出していない。</p>					